

June 13, 2015 キマダラルリツバメ初撮影

2013年、養父市で観察できなかったキマダラルリツバメ *Spindasis takanonis* が、今年、加古川市郊外で30年ぶりに発生しているとの情報を得て、友人と確認に行ってきた。午後2時から3時ま



では姿をみぜなかったが、友人がテリ張り行動は15時頃からだ、その習性をよく知っていてくれたおかげで粘り強く待機し、まさに15時を過ぎた時間帯となって、目の前をチラチラと飛び始め、やがてすぐ目の前のササの葉上に陣取って、じっくりと撮影のチャンスをくれる。



June 8, 2016 キマダラルリツバメが近くまで来てくれた

キマダラルリツバメの継続発生確認目的で、加古川の里山・ギフチョウ・ネットの環境整備活動などに精力的に協力をして下さるAさんを誘って15時過ぎに現地を訪れる。多分Hさんも来られるのでは、と話していたら間もなくHさんも見える。そして、幸先よくいきなり近くのシダ類の新葉上にキマダラルリツバメがとまってくれる。残念ながら後翅の破損度合いが高い個体だったが、まずは近場での撮影ができて、初めてだというAさんにもしつかり観察していただけてまずは安堵。やがて横浜からTさん、Iさんもかけつけ、遠くでチラチラと飛び交うキマダラルリツバメの動きを追う。あいかわらず離れた位置のコナラの梢部分での飛翔が多いが、思いは通ずるもので、再び筆者がカメラを準備して待つすぐ目の前に止まってくれる。先ほどと違って尾状突起がしっかりと4本そろった個体で翅表の新鮮度は高くないが、それでも贅沢はいわない。このあと17時過ぎまで粘っても再び近くに止



まることはなく、遠くの葉上で開翅する個体をズームアップでとらえてみる。先日よりは目が慣れて割合早くファインダーにとらえられるようにはなったが、光学ズームの限界で、ぶれまくりの中から許せる静止画像を切り取るだけ。



まることはなく、遠くの葉上で開翅する個体をズームアップでとらえてみる。先日よりは目が慣れて割合早くファインダーにとらえられるようにはなったが、光学ズームの限界で、ぶれまくりの中から許せる静止画像を切り取るだけ。



台風 5 号の影響で天候が思わしくないのを覚悟で、豊岡市への 1 泊旅行を計画し周辺で自然観察。全く日差しのない山道でアカシジミがつき合い程度に顔を出してくれてコナラの葉上に止まり、高い位置の梢をチラチラと飛ぶゼフィルスも目撃できたが、フジミドリシジミだったと推定。宿泊宿で夕食後にくつろいでいたら、窓の外にウラナミアカシジミかな、と思うシジミチョウが室内の電灯のあかりに誘われてやってきているのに気づく。ビデオカメラを準備して近づくとそれはなんとキマダラルリツバメ (*Spindasis takanonis* 準絶滅危惧選定 threatened)。窓の外側からも証拠記録をとる。夜間の灯りへのチョウの誘引飛来は、1959 年 7 月 7 日に高知市五台山でホソバセリが自宅室内の蛍光灯めがけて飛び込んできて以来の 49 年ぶりの体験だ。

